

平成30年度就職セミナー

プロフィール

- * 多治見出身(多治見高校)
- * 日本大学 理工学部 卒業
- * 入庁7年目
- * 趣味 スノーボード



志望動機

学生の際はざっくりな考えしかありませんでした。その中でまちづくりに関わりたい！誰かのためになる仕事がしたい！という思いもありながらも

「安定が欲しい」「土日は休みが良い」と言った思いもすごく強くあり公務員を志望しました。また地域に密着した仕事がしたいと思いながらも「転勤族は嫌だな～」といった思いもあって市役所を選びました。

下水道課(1～3年)

■主な仕事

工事の設計・施工管理や住民説明会等の普及活動をしていました。市民の方に使用料等の説明した時は、間違っ**て**はいけない！と、今まで感じたことのない緊張感がありました。工事現場では、交通規制をし大きな重機で道路を掘る現場を生で見て、市役所でもこんな大きな工事をするのかと迫力に圧倒されました。

1年目

無我夢中で、気づいたら半年が過ぎていました。1千万円を超える工事を任せられてすごく緊張しましたが、先輩職員・業者に助けられ、やりきる事ができました。1年目の職員は、担当業務の他に、消防や環境、観光等の研修に参加します。研修を通して、自治体の業務がいかに様々にあるかを感じた事を覚えています。

2年目

仕事にも慣れ、質問や相談をする時は、自分の考えを言うてからにするよう心掛けました。夏季休暇を6月に取得し、海外にも行きました。計画的な休暇を取得し、自分の生活リズムを作りやすいのも魅力だなと感じました。

3年目

多くの町内会や老人会から住民説明会の依頼を受け、担当をしました。時には100名を超える人の中で、お金や工事の話をするのは緊張しましたが、そのおかげで、人に話す力が身につきました。今思えば、若いうちに経験できるのはすごくメリットがあったなと思います。



道路河川課(4～6年)

■主な仕事

道路・河川の維持管理や改良工事を担当していました。市民の生活に直結した仕事のため、迅速な対応をすることを意識しました。また災害対応（訓練の実施）も多くあり、台風の際は昼夜関係なく待機したり、災害現場の確認をしたりと、行政の大変さも感じましたが、その分やりがいも大きなものでした。

4年目

初めての異動。下水道課の業務に慣れた頃の異動に戸惑いもありましたが、新鮮さもあり、気を引き締め直すことが出来ました。新設等の改良工事もあるなか、修繕依頼も多くありました。限られた予算をどう使うか？毎日、予算書と向き合いながら業務しました。

5年目

東北派遣。震災が起きてから5年。震災当時、保健師や建築職の派遣はありましたが、土木職第1号として半年間派遣されました。多治見から900km離れた町に一人で行く。今までで一番大きな経験でした。詳しくはのちほど…

6年目

台風や豪雨により市内でも多くの災害がありました、昼夜、土日問わず働く中、岐阜大学への1カ月研修などもあり、入庁以来最も多忙でした。東北派遣等の経験もあり、災害は冷静に対処できたと思います。大学での研修では、多くの出会いや経験ができました。転勤のない市役所勤務では、すごく貴重な経験だと思います。経験が活きた実感とあらたな経験をする大切さを、改めて感じた年でした。



復興支援（入庁5年目）

■派遣先

岩手県釜石市

建設部道路維持課

人口35000人

職員700人（350人が応援）

岐阜県各市から10人が派遣



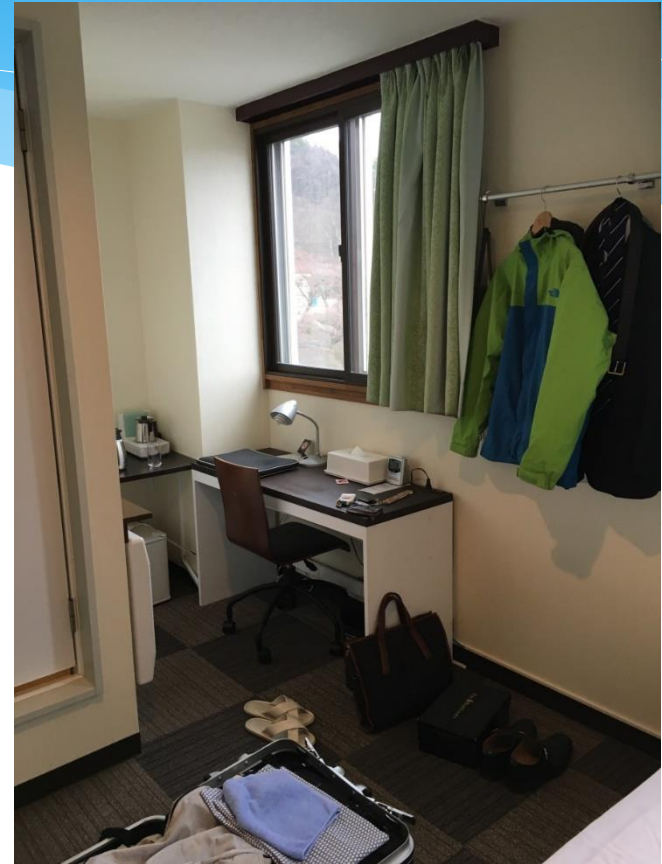
半年間の派遣でした。ホテルに住み込みながら、道路の維持管理や改良業務に携わりました。まだまだ復興途中で見渡す限り工事現場、毎日、道路が変わったりと普段経験することのない環境で、経験することができました。派遣中、史上初の東北地方直撃台風が襲来し、まさに災害の最前線で勤務しました。道路の寸断や孤立地域が発生する中、自衛隊の派遣や国の派遣と協力してライフラインの復旧に努めました。右も左もわからない自分と、震災を経験し的確な対応をする現地職員との差を痛感しながら、目の前の仕事を一所懸命にやっていました。

復興支援（入庁5年目）



■市役所からの様子

普段から、市内や道路に鹿や猿がいました。
山では熊に遭うことも。



■宿泊先のホテル

半年間、ここで寝泊まりしました。
想像より広く快適に過ごせました。

復興支援（入庁5年目）



■ 鵜住居地区の要様子

丘の上の建物が新しい小学校。正面の更地が震災前町があった場所です。
実際に現場を見て、震災の怖さを感じました。
道路は工事の関係で、毎日道が変わっていました。

復興支援（入庁5年目）



■市内の様子

正面は電車は通っていた橋です。5年経っても手付かズの被災地が多くありました。被害の大きさと復興の道のりの永さを感じました。

復興支援（入庁5年目）



■ 公用車

多くの公用車が津波で使えなくなったため、寄付車両を使っていました。写真のバイクの他に、タクシーもありました。



■ 復興住宅

集合住宅と戸建て住宅があり、大手建築会社が手掛けておりデザイン性等もある住宅が建ち始めていました。

復興支援（入庁5年目）



■ 日常業務の様子

住民要望に応じて、安全施設を設置しました。写真は、自分と東京都から派遣された職員で作業している様子です。



■ 緊急対応の様子

台風が襲来し、先の道で道路が水没しているため、通行止め作業をしている様子です。

復興支援（入庁5年目）



■台風時の宿泊先（白い建物）

河川が増水する中での様子です。水位は4 m くらい上昇しています。宿泊先のホテル1階に止めてある自分の車を心配しながらも、業務に臨みました。



■災害対応

台風が去った後、被災状況の確認をしました。道路が寸断されているところもあったため、徒歩で渡り確認を急ぎました。

復興支援（入庁5年目）



■ 残業中の夕食

災害後は、残業も多くあり、夕食を職場で食べる事もありました。
みんなで囲む夕食は癒しにもなり、仕事へ良い影響がありました。

入庁してから取得した資格

■資格

下水道排水設備工事責任技術者
建築物応急危険度判定士
被災宅地危険度判定士
社会基盤メンテナンスエキスパート

■研修

- ・下水道事業団(3週間)
- ・橋梁研修(1週間)
- ・岐阜大学(1ヶ月)



自治体はみんな一緒と思うかもしれませんが、
職員への支援制度等は自治体によって違います。

多治見市では多くの**スキルアップ支援制度**あり、
活用すれば自分の**理想的なキャリアデザイン**が描けます。

狙う資格

業務的には、一級土木施工管理技士ですが、
個人的には世界遺産検定を目指しています。

市役所の土木職ってどんな仕事？

(自分が思う)土木とは

- 道路、河川、公園、水道、下水道・・・

市民からみて土木って？

- 道路→車で走れて**あたりまえ**、歩道が歩けて**あたりまえ**
- 河川→ちゃんと流れて**あたりまえ**、溢れなくて**あたりまえ**
- 公園→遊べて**あたりまえ**、ベンチで休めて**あたりまえ**
- 水道→飲めて**あたりまえ** ・下水道→流せて**あたりまえ**

出来なかったらどうなる？

市役所の土木とは

あたりまえを**あたりまえ**にする

市民があたりまえに生活できるよう支える仕事
それが、市役所の土木職だと思います。

最後に

自分が思う、多治見市の特徴

- 異動は、まるで転職。一つに何十年も配属する自治体もありますが、多治見市は3、4年のスパンで異動するため、幅広い経験を積むことができます。
- 若い頃から派遣したり、大きな仕事を担うこともあります。他の自治体に比べて多くの若手が活躍しています。

必要だと思うスキル

- 市民の方や職員同士はもちろん、国や県、他市職員など、“人”と密接した仕事がほとんどなので、コミュニケーション力（伝える力、聞き取る力）が必要だと思います。

やっておくの良いと思うこと

- 今やりたいこと、今しかできないことをしてください。
良くも悪くも学生最後です。いろんな経験をして楽しんでください。
勉強だけでなく、友人と旅行したり、遊んだり、恋人とデートしたり・・・
知識は、就職してからいくらでも増やせます。そういった事がコミュニケーション力の向上にもつながると思います。就職後、様々な年代の人とコミュニケーションをとるツールにもなると思います。

最後に

～いっしょに働ける日を楽しみにしています～